

地域社会減災計画寄附研究部門活動報告会を開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、6月14日(金)、環境総合館1階レクチャーホールにおいて、地域社会減災計画(応用地質)寄附研究部門の平成24年度活動報告会を開催しました。同センター及び寄附研究部門の関係者をはじめ、約80名が出席しました。

初めに、岩崎恒明応用地質株式会社代表取締役副社長が



報告会の様子

寄附部門設置に対する思いについて話しました。続いて、曾根好徳同寄附研究部門教授より、同研究部門の1年間の活動報告がありました。曾根教授は、同研究部門が、産業界の目線で産官学民の連携を強化することを大切にしながら、東日本大震災に徹底的に学び、南海トラフ巨大地震に備えて「しなやかな」地域社会の構築を目指す一連の研究に取り組んでいることを報告しました。

次に、研究成果の紹介として、仲条 仁同センター受託研究員より、東日本大震災の産業被害について報告がありました。また、過去の地震から得た教訓を風化させずに後世に伝承する研究を行っている倉田和己同寄附研究部門助教は、地理情報システム(GIS)を活用した減災への貢献について報告しました。さらに、山崎雅人同寄附研究部門助教より、経済被害予測モデルの開発とその利用可能性について報告がありました。最終的に自然災害に伴う経済被害を指標として減災対策を評価することを目的としており、その手段として同モデルを開発中であることが説明されました。

最後に、兼森 孝応用地質株式会社取締役常務執行役員より講評があり、閉会となりました。

第6回市民参加アベニューを開催

●エコトピア科学研究所

エコトピア科学研究所は、6月5日(水)、愛知県知多郡武豊町にある中部電力株式会社メガソーラーたけとよにおいて、第6回市民参加アベニューを開催しました。

東日本大震災以降、電気エネルギーの問題はターニングポイントを迎えています。同企画は、市民一人ひとりが電気の理解を深め、電気の大切さを再認識し、日常生活の場

で実践できるようになることを目的とし、定期的な講演や見学会を通じて学ぶ機会を提供しているもので、年2回程度開催しています。今回は、再生可能エネルギーとして期待されている太陽光発電の現状について講演を行うとともに、実際に稼働しているメガソーラーシステムの見学を実施し、76名の参加がありました。

初めに早川直樹同研究所エネルギー科学研究部門長がいさつし、山中三四郎名城大学教授より「太陽光発電 日本の現状」と題して講演がありました。山中教授は、太陽光発電の特徴について説明するとともに、経済性の早期確立への誘導や、電力系統との調和が必要なことなどの課題について、国内外の実例を交えてわかりやすく講演しました。その後、メガソーラーたけとよ及び武豊火力発電所の見学を行い、参加者は、太陽光発電の可能性を体感するとともに、電力安定供給の重要性について学びました。

同企画開催にあたっては、電力設備の見学を含むため、事前申し込み制をとりましたが、予想を大きく超える反響があり、早々に定員に達しました。太陽光発電に非常に大きな興味と期待がかけられていることがうかがわれました。



メガソーラーを見学する参加者

第90回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター



講演する藤村氏

減災連携研究センターは、5月28日(火)、環境総合館において、第90回防災アカデミーを開催しました。

今回は、ぼうさい朝市ネットワーク全国コーディネータである藤村望洋氏による講演「南三陸と、災害時の『隣』から支援『ぼうさい朝市ネットワーク』」が行われ、77名もの参加がありました。

藤村氏は、初めに、阪神・淡路大震災や東日本大震災時の自身の経験について紹介し、続いて被災地支援における「隣ネットワーク」の意義に関して説明しました。その後、東日本大震災時に行われた「隣ネットワーク」の実例として、南三陸を支援するため、山形県酒田市を拠点として救援物資を運んだ経緯や、この取り組みを加速させるための「『福興市』と『ぼうさい朝市』・メディアミックス型地域間共助連携」の構想が紹介されました。

会場からは、講演内容を踏まえ、自立を促す支援の行い方などについて活発な質疑応答が行われました。

三矢保永写真展「空・雲・光」を開催

●博物館



展示作品「弥山朝の雲海」

博物館は、4月16日(火)から6月14日(金)までの間、同館野外観察園セミナーハウス2階展示室において、三矢保永写真展「空・雲・光」を開催しました。

撮影者の三矢保永氏は本学工学部の名誉教授で、50年近く登山歴があり、空・雲・光の織りなす写真をフィルムカメラにこだわって撮影し続けています。今回は30枚の写真を展示し、名大祭を挟んだ53日間の会期中における観客数は、1,014名にのぼりました。観客からは、「雄大な自然の中の不思議な現象を、写真を通してみるのが出来て感激した」、「どれもこれも素晴らしく抒情詩を見ているようだ」といった感想が寄せられました。

6月1日(土)には、同氏によるギャラリートークが行われ、29名が芸術写真を前に科学的な解説を受けました。

野外観察園セミナーハウスは、平成15年度に新築され、2階展示室では年に数回の展示を開催しています。近年は、学内のみならず地域の方々の来訪も増えています。

第1回地球教室を開催

●博物館



南知多町礫ヶ浦にて化石採集を行う参加者

博物館は、5月25日(土)、26日(日)の2日間、第1回地球教室「名大博物館バックヤードと野外で深海の地層と化石を調べよう!」を開催しました。

今回は、130名を超える応募者から選ばれた約30名が参加し、1日目は、博物館において、日本や世界のさまざまな地層について紹介した後、地層を作る実験をしました。また、同館のバックヤードで同館所蔵の化石などを観察しながら、化石が地層の中に残されるプロセスについて考えました。2日目は、南知多町の礫ヶ浦と片名を訪問し、砂岩と泥岩の地層を観察した後、化石の採集を行いました。参加者は、二枚貝やヒトデ、ウニ、などの化石を自分で見つける興奮を味わうとともに、古代の生物が地層に残された過程を考えることによって、自然を身近に感じ、理解を深めていました。

なお、同事業は、博物館と名古屋市科学館との連携事業の一環として、愛知大学名古屋一般教育研究室的の援助を受けて開催しています。